

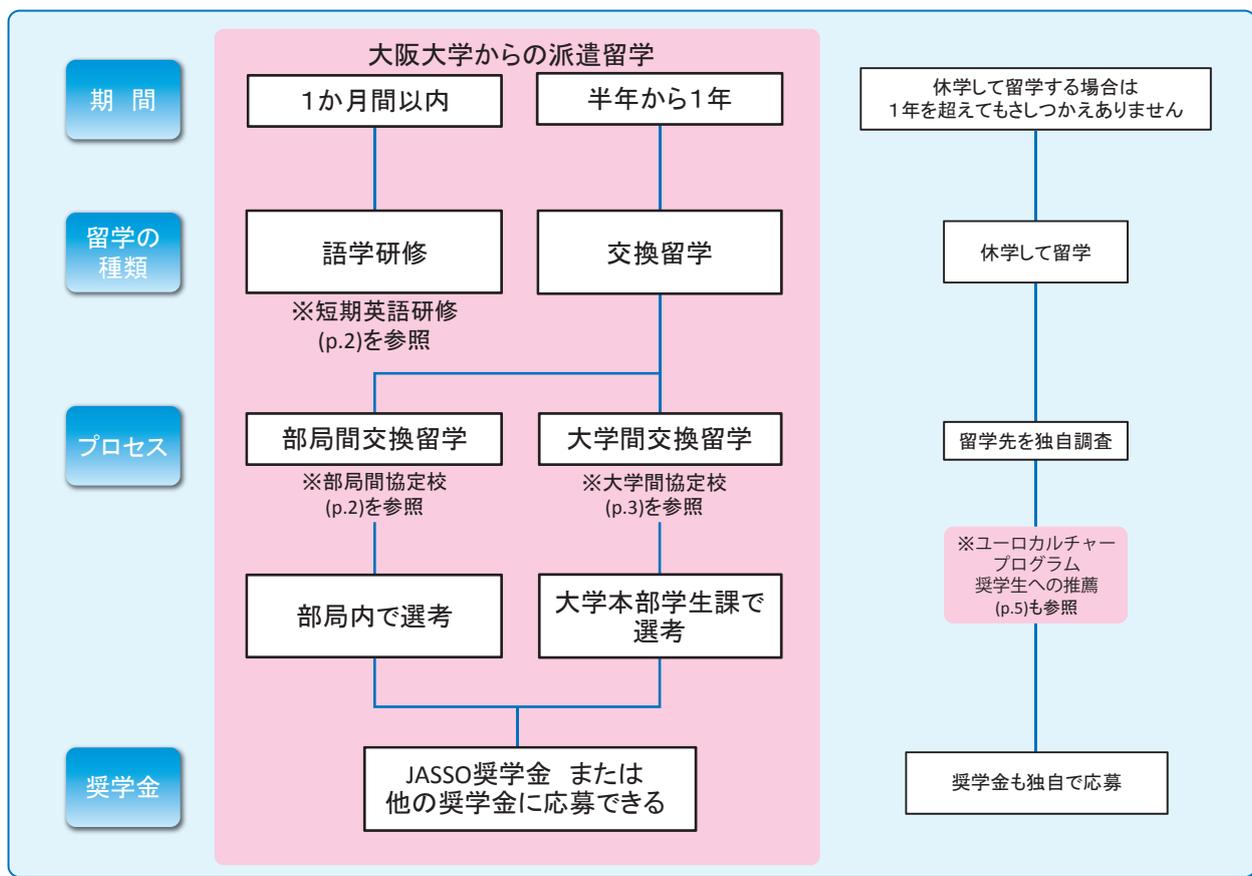


留学のチャンスを活用しましょう！

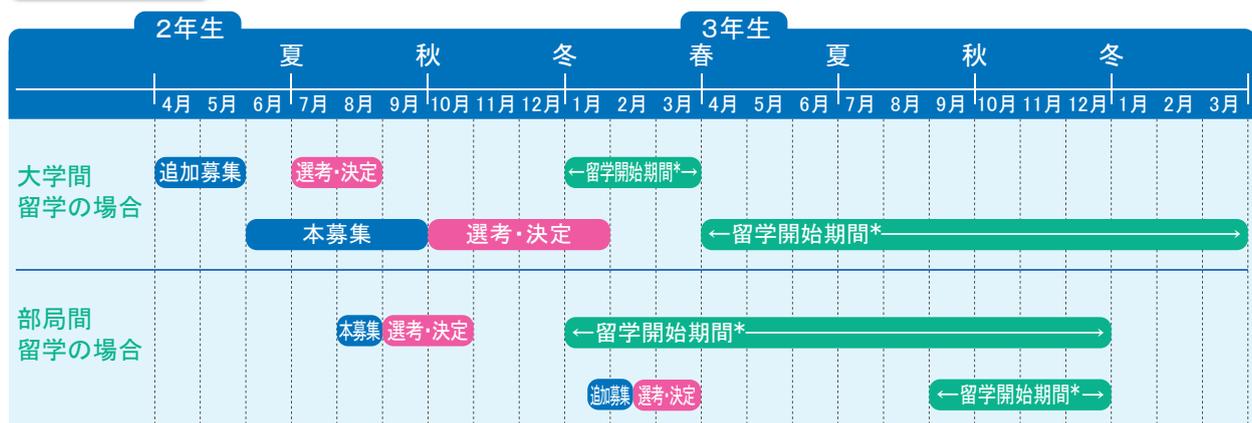
大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。

このパンフレット掲載の情報は、[文学部のホームページ](#)でもご確認いただけます。

文学部 HP » 国際交流 » 広報・記録 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international>



タイムライン



*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

A. 留学情報 役に立つ説明会が実施されています

- ★「海外留学オリエンテーション」(国際学生交流課主催) 4月末に各キャンパスで開催。
語学研修、国際交流科目などについての説明があります。
- ★「海外留学フェア」(国際学生交流課主催) 4月末に豊中キャンパスで開催。
- ★「大学間交換留学オリエンテーション」(国際学生交流課主催) 6月から7月にかけて、各キャンパスで開催。
交換留学(大学派遣)についての説明があります。
- ★「人文学研究科(旧文学研究科)・文学部 留学説明会」5月開催。
人文学研究科(旧文学研究科)・文学部の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう！」 阪大生のための「海外留学ガイドブック」
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

留学の種類と語学研修

- ★短期英語研修 [数週間程度] 夏休みや春休みに英語研修が実施されています。
※状況に応じて、各プログラムは中止や延期、もしくはオンラインでの実施に変更となることがあります。

プログラム名	募集時期 (2022 年度情報)	実施時期 (2022 年度情報)
ヨーク大学 夏季語学研修プログラム*	4月上旬～5月上旬	8月下旬～9月下旬 (3週間)
グローニンゲン大学 短期滞在学修* (英語講座)	4月上旬～5月上旬	6月下旬～7月下旬 (10日間) (オンライン)
エンデランカレッジ夏季 語学研修プログラム*	4月上旬～5月上旬	8月下旬～9月下旬 (5週間) ※2022年度は、オンライン実施。 オンラインの場合は3週間
エンデランカレッジ春季 語学研修プログラム*	11月下旬～12月上旬	2月上旬～3月上旬 (3週間)
リーズ大学春季語学研修プログラム*	11月下旬～12月上旬	2月中旬～3月中旬 (4週間)

*「国際交流科目」として単位修得できるプログラム ☆募集情報は大阪大学のHP、KOANでご確認ください。

※ 最新の情報は大学HPを参照、https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

★交換留学 交流協定校へ1学期以上、1年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続きを経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 応募するには TOEFL iBT80 又は IELTS (アカデミック・モジュール) 6.0 以上の英語力がが必要です。
留学先大学によって語学基準が異なります。

◆人文学研究科(旧文学研究科)・文学部の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の2種類があります。

1. 交換留学(部局間協定) 人文学研究科(旧文学研究科)・文学部は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。

イギリス	マンチェスター大学*	人文学部
	イーストアングリア大学	
イタリア	ウーディネ大学	法学部
ポーランド	ヤギェロン大学	国際政策学部
スウェーデン	ウプサラ大学(*修士・博士前期のみ)	神学部
チェコ	オロモウツ パラツキー大学	文学部
	プラハ・カレル大学	哲学部
ドイツ	ハイデルベルク大学	日本学研究所
	ゲッティンゲン大学	社会科学部
フランス	パリ・シテ大学	
中国	上海戯劇学院 *院生のみ	
	西北大学	文化遺産学院
韓国	韓国芸術総合学校	演劇院
タイ	チュラロンコン大学 *院生のみ	アジア研究所
台湾	国立台湾師範大学	文學院
		国際与社会科学学院

* 国際連携室まで要照会

交換留学（部局間）の募集・選考予定は以下の通りです。

募集	8月（本募集）	1月～2月（追加募集）*
選考	9月上旬	2月～3月
留学開始	翌年1月～12月	9月～12月

* 大学によっては募集枠のない場合があります。

2. 交換留学（大学間協定）

大阪大学は世界各地の約148大学と交流協定を結んでいます。（2023年1月1日現在）
大学HP参照 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/exchange>（）

募集締切	5月下旬頃	9月下旬頃
学内選考・面接	7～8月	10～11月
学内選考結果通知	8月頃	1月頃
留学開始	翌年1月～3月	翌年4月～翌々年3月

※スケジュールは変更される可能性があります。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

バーチャル交換留学プログラム

バーチャル留学について

大阪大学ではポストコロナの状況を展望し、海外の大学等からオンラインで提供されるプログラムを学生が履修する場合、一定の条件を満たす者*に対して単位を付与し、また「留学」として認定します。

*一定の条件を満たす者とは、以下の通りです。

- ①「グローバル人材育成研修」（グローバルイニシアティブセンター提供科目）の単位修得者及び同等の活動を行った者
- ②全15コマ中8コマ以上の講義が、海外の大学や研究機関所属のゲストスピーカーにより日本語以外の言語で提供される科目の単位修得者
- ③本学が海外大学等に委託して実施するオンライン短期語学研修又は協定校などの海外大学が提供するオンライン短期語学研修に参加し、当該プログラムを修了^(注)した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）
- ④協定校などの海外大学の正課講義を、受講登録したうえで公式にオンライン受講した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）

（注）：海外大学等が公式に発行する transcript（成績証明書）により修了が確認できるものであること
以下に一例を紹介し、詳しくは国際連携室まで、お問い合わせください。

★ APRU Virtual Student Exchange Program (VSE)

VSEはARRU（Association of Pacific Rim Universities（環太平洋大学協会））加盟大学が提供する授業科目から構成されるオンラインプログラムです。詳細は、以下ウェブサイトを確認してください。

- ✓ VSE ウェブサイト <http://vse.apru.org/>
- ✓ VSE ウェブサイト Application <http://vse.apru.org/application/>
- ✓ VSE ウェブサイト授業科目一覧 <https://vse.apru.org/s12223/>
（申請期限は大学毎に異なります。詳細は、VSE ウェブサイト授業科目一覧をご覧ください。）
- ✓ Co-curricular programs <https://vse.apru.org/co-curricular-programs/>

☆対象者

本学に在籍する学部学生

☆申請方法

申請は、VSE ウェブサイトで行います。詳細は「VSE ウェブサイト Application」を確認ください。以下は手順の概要です。

- ①ウェブサイト上で申請書（Application Form）を提出する。
- ②①の後、申請書入力内容の詳細と成績証明書をダウンロードするためのリンク先を知らせるメールを受信する。
- ③②のメールを本学 APRU VSE コーディネーター
（国際部国際企画課国際交流係、メール：kokusai-koryu-suisin@office.osaka-u.ac.jp）に転送する。
- ④本学 APRU VSE コーディネーターが申請内容を確認後、VSE オフィスに連絡。

★①～③の手続き後、VSE オフィスと履修申請した授業科目を提供する大学が申請書等の書類を確認します。授業科目の履修が認められるとVSE オフィスからメールが届きます。その後、提供大学から詳細な登録方法等について案内があります。

※APRUは、環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される組織で、各国の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題（例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等）に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立されました。現在は、環太平洋地域から61大学（2022年3月時点）が加盟しており、各大学にてワークショップ、シンポジウム、国際会議等の様々なプログラムを実施しています。大阪大学は設立当初からメンバーとして加盟しており、各種イベントに学生及び研究者を派遣しています。

※登録費用：必要な登録料等は一部支給します。詳細は国際連携室まで、お問い合わせください。

B. 奨学金情報 (2022 年度実績)

(奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2023 年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN 等で案内されます。)

大阪大学 HP » 国際交流・留学 » 大阪大学から海外留学したい方 » 留学助成制度
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship>

1. 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 実施の奨学金

支給型・・・応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部研究科豊中事務部の教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生 (外国人留学生を除く) 3 ヶ月以上 12 ヶ月以内の交換留学	月額 10・8・7・6 万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位 取得型	以下の全てを満たす者 (外国人留学生を除く) ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ② JASSO が定める「応募者の要件」を満たす者	月額 89,000 円～ 148,000 円 (地域により異なる) 授業料 (上限 1 万米ドル)

他にも、貸与型の「第二種奨学金」(短期留学)・(海外)があります。
 詳細は下記ホームページ (<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>) をご覧ください。

2. 大阪大学の奨学金 未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金	学部・博士前期課程の正規生 交換留学 (3 か月以上 1 年未満)	月額 5 万円
研究留学助成金	大学院生 (正規生) 研究留学 (3 ヶ月間以上 10 ヶ月間程度)	往復渡航費: アジア地域 10 万円、その他地域 20 万円 奨学金: 月額 10・8・7・6 万円 (留学先による)
住友化学グローバルリーダー育成奨学金	学部・大学院生 (正規生) 留学 (3 ヶ月間以上)	留学期間 6 か月未満: 60/80 万 留学期間 6 か月以上: 90/120 万

3. 文学部の奨学金 教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1 年に 2 回 (6 月と 1 月) 募集します。

文学部 HP » 国際交流 » 海外留学・研修 » 交換留学 (部局間) について » 「4. 教育ゆめ基金」
<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/inter-faculty>

4. その他の奨学金

* 日本学生支援機構「海外留学の奨学金」のページ http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/

* 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム～」

対象: 学部・大学院に在籍する正規生 28 日以上 2 年以内 (3 か月以上推奨) 留学する者

支給額: 月額 6 ～ 16 万円 (経済状況や留学先地域による) ※支援額は変更する場合があります。

C. 外国語による授業

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course (英語開講授業リスト)

1. 全学共通教育科目の外国語による授業

2. 国際交流科目 全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。

3. 外国語による発信力を育成するための科目

“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。

4. エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"

10 月から 12 月に開講されます。(修士課程以上)

D. 語学能力について

英語の場合 各大学の必要要件を調べましょう。セクションごとに足切り点がある場合もあります。

- ・ TOEFL アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合一般的に用いられます。試験はコンピューターで4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を測定する試験です。
- ・ IELTS イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。筆記試験と、スピーキングの面接があります。

国際連携室に試験対策用の参考書がありますのでご利用ください。貸し出しもできます。

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。大学間では、交換留学応募時に公式の語学能力証明書を求められることがあります。

E. 外国語（英語）能力向上への支援

文学部・人文学研究科でグローバル人材育成の目的で、言語能力及び国際的な場で発言できる訓練のために以下のようなプログラムを提供しています。

1) 国際セミナーの開催及びプロシーディングの刊行

文学部・人文学研究科で学ぶ学生が国際的な場で自信を持って英語で発言し、議論を行うための訓練の場として、国際セミナーを開催しています。このセミナーでは、当学部・研究科の日本人学生や留学生だけではなく、海外の大学の学生や教育者も参加できるようにし、口頭発表のみならず、質疑応答・教育研究者コメント等も英語で行います。また、海外からの参加者と自由に意見交換や議論が行える環境を提供します。発表者全員に発表内容を英語で論文化してもらい、セミナー開催の詳細報告と合わせたプロシーディング (ISBNも付与) を刊行しています。

文学部・人文学研究科の学生の口頭発表の準備にあたって、国際連携室では英語の発表方法等について指導・助言、また、英文校正のための特別支援も実施しています。当セミナーは、文学部学生の海外の教育研究者・学生との交流だけではなく、語学研修への足がかりにもなります。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/news>

2) グローバル人文学推進のための英語集中講座

「教育研究の国際的通用性・国際的発信力」(向上) を実現するため、学部生・大学院生を対象とした英語集中講座を実施しています。二つのレベルを設定して二講座(中上級/上級など)を設定しています。学外からネイティブの講師(ブリティッシュ・カウンスルなどから)を招き、授業をしてもらいます。受講料はかかりません。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/academicwriting>

★正規留学 学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学 ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治についてEU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学人文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の8大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は[文学部の関連ページ](#)(HP » [国際交流](#) » [Erasmus Mundus](#))をご覧ください。

コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学 (オランダ)、ゲッティンゲン大学 (ドイツ)、ウプサラ大学 (スウェーデン) ヤゲロニアン大学 (ポーランド)、パラツキー大学 (チェコ)、デウスト大学 (スペイン)、ウーディネ大学 (イタリア)、ストラズブール大学 (フランス)

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。

Erasmus Mundus Master of Arts
EUROCULTURE





留学体験記

マンチェスターへの留学を振り返って

西洋史学専修 4年 瀬田純平

イギリス マンチェスター大学 (部局間派遣、派遣時学部3年)

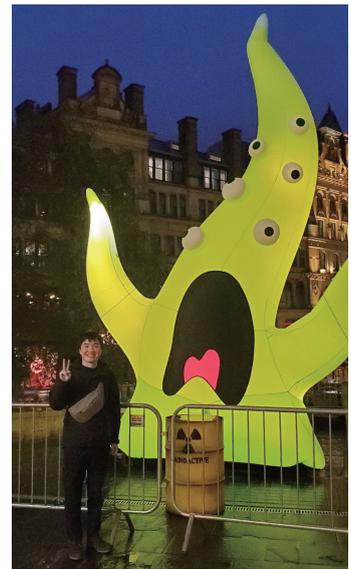
学部生として入学した当初、留学は一部の優秀な学生や経済的に余裕のある学生だけに開かれたものだ、まさか自分が行くなんて考えてもいませんでした。留学をめざす周囲の人から刺激を受けたり、専攻のイギリス史を深めるなかで研究対象のリアルな姿をみたいという思いが強くなり、やがて留学をめざすようになりました。3回生の9月から約10カ月間の留学でした。

留学にできるまでに諸々の手続きや準備が必要となります。私の場合、大きな壁となったのは英語スコア取得、留学用の奨学金探し、ビザ申請でした。動き出すのが遅れたためにそれぞれで大変な思いをしました。何とか間に合わせ留学にこぎつけました。

約半年の準備のちにやっと開始した留学生活は、成功と失敗、そして発見が豊かな、総じて充実した期間となりました。授業は現地の学生に混ざっての履修で、授業前の論文購読や、授業中は英語の聞き取りや意見発表、学期末のエッセイ執筆など、はじめての海外生活には負担の重いものばかりでしたが、そのぶん、しっかり準備して上手くいった暁には大きな自信として返ってきました。生活していたのはキッチンやシャワー共有の7人フラットで、フラットメイトはみんなイギリス人でした。彼らと日常的に交わす雑談や誘われて参加するイベントを通しては、現在のイギリス社会やその文

化がよく理解できました。とりわけ、仲良くしていたフラットメイトがパキスタン移民2世であったことや、寮のすぐ隣に国内有数のエスニック料理街があったことで、現代イギリスの多文化社会を印象的に思い知らされました。そのほか、マンチェスターを飛び出し、イギリス国内やヨーロッパの旅行に出かけると、町や史跡を見学するなかで不意な発見や湧いてくる想像があり、とても有意義な時間が過ごせます。

留学やそのための準備は楽しいことばかりでなく大変なこともあります。しかし留学を終えて振り返ってみれば、きっといづれも思い出や自分の成長として大きな財産になっているはず。少しでも考えている方はぜひ一歩を踏み出してみてください！



マンチェスター市街でのハロウィン

イーストアングリア大学への留学

英米文学・英語学専修 4年 奥川瑞穂

イギリス・イーストアングリア大学 (部局間派遣、派遣時学部3年)

私は2021年9月から約10ヶ月間イーストアングリア大学に留学しました。自分の専門である英米文学に加え、文学作品における日英間の翻訳を学術的に勉強したいと思い、交換留学を志望しました。留学先では理論と実践両方の面から翻訳について学ぶことが出来たので非常に良い経験を積むことが出来たのですが、ここでは勉強のことではない私が留学して感じたことを書きます。

留学先での日常は、始まりから終わりまで毎日が

刺激的でした。特に留学したての頃はそもそも周りの人々の会話を全く聞き取ることが出来ずかつ満足に英語を話せず、その結果フラットでも授業でも課外活動でも恐ろしいほどのふがいなさや疎外感を味わいました。しかし小さな失敗と成功を積み重ねるうちに、自分の要求や意志を明確に表すと、求めている助けや機会を得られるということ学びました。

さらに、自分は本当に恵まれた環境で生きているのだということ、恥ずかしながら初めて認識し

ました。私が上手く英語を聞けず話せなかった時期から寄り添ってくれた留学先での友達やフラットメイト、留学前からずっと支えてくれた両親、留学申請のサポートや現地での生活を気に掛けて下さった国際連携室の先生方や自専修の先生、留学のアドバイスを沢山下さった先輩など、数え切れないほど多くの方々の支えがあって今回の留学を実現することができたこと、さらに今までの生活も自分がはつきりと気付いていなかっただけで、やはり多くの支え上に成り立っていたことを痛感しました。過ぎてしまえば10ヶ月というのはあっという間でしたが、自分が知らなかったことや気付いていなかったことに触れた今回の留学は、自分の人生に大きな影響をもたらした経験になったと実感しています。



ロンドンのソンドハイム・シアターにて

ロンドン大学への交換留学

音楽学専修 3年 縄田安耶香

イギリス ロンドン大学ゴールドスミス校 (部局間派遣、派遣時学部2年)

高校生の頃から漠然と、「大学生になったら留学へ行くんだ」と考えていた私を絶望させたのが、2020年初頭から世界を襲った新型コロナウイルスの流行だった。当時大学に入学したばかりでオンライン授業が続く中、私は半ばあきらめの気持ちを抱くようになった。時は過ぎ2年次の10月になり、対面の授業も再開されたとき、専修からこの3か月間の交換留学生の募集があった。留学開始が翌年の1月というタイトなスケジュールに、私は応募すべきかどうかを迷ったが、ずっと留学にあこがれていた気持ちと、家族からの後押しもあり、応募することを決意した。目標を失いさぼりがちだった英語は全く話せなかったし、留学関係の書類をそろえるだけでも一苦労。コロナ関連の検査や書類の手続きに追われ、すぐに出発の日になった。

私が留学したのは、イギリスのロンドン大学ゴールドスミス校で、ロンドンの中心街までは、公共交通機関で30分ほどの地区にある。私は大学の隣にある学生寮で生活していた。授業の時間割が違ったり、冬は朝七時でも窓の外が暗かったり、異なる生活に戸惑うことも多かったが、言語の壁がある中でもなんとかやっていくことができた。英語が母国語の学生とともに受ける授業は、内容について行けず苦労した。授業のためのリーディングも量が多く、最初は泣きそうになったが、留学が終わるころには長い英文を読むことへの抵抗が少なくなった。英文の読み方やエッセイの書き方も学ぶことができた。

授業がない日は赤い二階建てバスに乗って美術館や博物館に行ったり、電車で遠出をしたり、名所を訪れたりロンドンの街を散策した。自身の研究対象であるストリートピアノも弾くことができ、本当に良い経験になった。

自分が今いる快適な場所から一步踏み出すことはとても勇気がいるが、その一步の先には新たな発見があると思う。やってみたいという気持ちを大切にしておいてあなたが一步を踏み出せることを祈っている。



オックスフォードに訪れて、街を一望できるカーファックス塔に上った際

Having studied at Osaka University for a while

基盤日本学・博士後期課程 1年 Lin Jianhong

中国出身留学生

My name is Jianhong Lin. I'm in the first year of my PhD course here at the Graduate School of Letters (Humanities) at Osaka University, after finishing my 6-month-long research student course and my master's degree in March 2022.

At the very beginning, I needed to take an enrollment test to be a research student. I still remember that I and all the other candidates were in suits, gathered at the reception for the test, and later that an assistant staff guided us to a waiting room for each of our interviews. In the waiting room there were many lovely decorations: a hand fan with characters in cursive style, a kabuki-like doll, and outside I could see the buildings in their simple and unadorned style. My thoughts went right away to what I'd watched in anime or some Japanese dramas. More impressively, as we walked into the research and teaching building, everything was very quiet and peaceful. The academic and cultural environments were very different from my home country which made me want to explore them more.

In general, professors here do scholarly research rigorously, and provide us with a variety of curriculums on topics such as gender, language socialization, etc. Japanese studies students are very hardworking, especially when it comes to subjects that they're interested

in. However, campus life is not only about studying and academics. During lunch break, my fellow students and I always sit together to have our own obento and share our latest news. The university provides open spaces like the language café and interesting workshops. I have never felt bored or lonely because I am always surrounded by active and enthusiastic people.

Osaka University's overall feeling is unique. I would describe it as a sense of unity and harmony, and at the same time full of creativity and inspiration. Osaka University gives us a lot of space and a great deal of resources. I believe that both students that know what they want and those that are still looking for what they like will enjoy their school life here, and receive the tools to achieve their own success.



Me at Umeda, the City Center of Osaka

編集・発行 人文学研究科・文学部 国際連携

堂山 英次郎・モハンマド モインウッディン・廣澤沙紀

発行日 2023年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町 1 - 5